

巻頭言（2012年6月号）

理事長 新谷友良

今般、高岡理事長より「東京手話通訳等派遣センター所長業務専念のため、理事長を辞任する」旨、申し出度があり、6月26日の理事会で後任理事長に新谷が選出されました。浅学非才ではありますが、残る来年3月までの任期、協会理事長を務めさせていただきますので何とぞよろしくご指導、ご支援をお願いいたします。

東京都中途失聴・難聴者協会は平成14年、任意団体から特定非営利活動法人となり、10年が経過しております。この間、高岡前理事長の卓抜な指導力のもとに会員数も増加し、会員相互の自助・共助の場として非常に大きな役割を果たすと同時に、当事者団体として中途失聴・難聴者の福祉向上、社会参加促進に大きな足跡を残してきました。また、協会の担う公共的な役割についての社会の認知も進み、行政・財団などからの助成を受けた事業も拡大しております。

このように順調な活動を積み重ねている協会ですが、外からは障害者を取り巻く様々な制度改革の波が押し寄せており、対内的には会員のニーズの多様化、また高齢化の進展で、協会は体力的にも財政的にも多くの解決しなければならない課題に直面しております。

今年度の協会の活動は5月27日の通常総会で承認された事業計画・予算に沿って進められます。個々の事業の計画とその進捗については「協会ニュース」などで、随時会員の皆さまに報告しご意見をいただいておりますが、皆さまにお願いしたい焦眉の課題があります。それは、会員数の拡大です。協会は700人の会員といわれ続けていきましたが、実力は600人を少し上回る程度で推移し、平成23年度は650人の会員に止まりました。今年度は昨年度実績から会員を約40人増やすことを目標にしております。そのための必要な取り組みは理事会などで検討して参りますが、会員拡大に当たって最大の力は、会員の皆さま一人ひとりの協会についての思いと、その発信です。是非周りの方に、皆さま一人ひとりの言葉で協会の姿をお話しくださるようお願いいたします。